

IV. 平成26年度北九州市障害者等聴き取り調査 調査結果（主な項目）

■ 障害福祉サービスを利用してよかった点

- ・いずれの障害でも、「安心して生活できるようになった」、「自分の好きなことができるようになった」、「家族の負担が軽くなった」、「通所先での交流が楽しい」などの回答があった。

■ 障害福祉サービスについて改善して欲しい点

- ・いずれの障害でも、「事業所、施設の職員が忙しそうで相談しづらい時がある」、「サービスの利用日数をもっと増やして欲しい」、「工賃を上げて欲しい」などの回答があった。

■ 今後利用したい障害福祉サービスについて

- ・いずれの障害でも、「将来的な一人暮らしを見据えて、グループホームや居宅介護などの利用を考えている」などの回答があった。

■ 日常生活で困っていることについて

- ・外出時について、身体障害者では、「バスや電車内で足元に荷物を置いている人がいて、つまずいたことがある」、「点字ブロックの上に車や自転車が停められていて危険だった」、知的障害者では、「一人で外出するのは不安、怖い」、精神障害者では、「人の多いところが苦手で公共交通機関が使えない」などの回答があった。
- ・災害時の対応について、いずれの障害でも、「災害時に誰に手伝ってもらえるか分からない」などの回答があった。
- ・差別や人権侵害を受けたことについて、身体障害者では、「周囲の心ない言葉や対応で傷ついた」、知的障害者では、「嫌な目で見られた」精神障害者では、「病気に対する理解がない」などの回答があった。
- ・生活費や医療費について、精神障害者では、「医療費や交通費が負担となっている」などの回答があった。
- ・バリアフリー等環境整備について、身体障害者では、「点字ブロックの整備」、「段差解消」、「トイレのバリアフリー化」などの回答があった。

■ 日常生活で困ったときの相談者について

- ・いずれの障害でも、「利用している施設、事業所の職員」、「家族」の回答が多かった。
- ・精神障害者では、上記に加えて「通院している医療機関の職員（主治医、看護師など）の回答もあった。

V. 平成26年度第2回市政モニターアンケート「障害福祉施策について」 調査結果（主な項目）

■ 障害のある人への理解や関心について

- ・障害のある人と接したり交流したりした経験がある人の割合は82.1%だった。その内容は、「身内や親しい人に障害のある人がいる」（62.2%）の回答が最も多かった。

■ 障害者福祉への関心度について

- ・「大変関心がある」（32.4%）と「ある程度関心がある」（55.2%）を合せると87.6%であった。関心がある理由としては、「身内や親しい人に障害者がいる」（61.7%）の回答が最も多かった。

■ 障害のある人に対する差別や偏見などについて

- ・障害のある人に対する差別や偏見などを感じる人がいる人の割合は、「よく感じる人がいる」（9.7%）と「ときどき感じる人がいる」（47.6%）を合せると57.3%であった。差別や偏見などを感じている具体的な内容としては、「仕事や収入」（92.9%）の回答が最も多かった。

■ 障害福祉施策の取り組みに対する評価等について

- ・4つの施策について尋ねたところ、以下のような結果であった。
- ・障害者の能力や意欲に応じた多様な就業機会が確保されてきたと感じる人の割合（「どちらかといえばそう感じる」を含む。以下同じ。）は37.9%、感じない人の割合（「どちらかといえばそう感じない」を含む。以下同じ。）は15.9%
- ・障害者就労施設等の物品に対する需要を拡大するための取り組みが進んできたと感じる人の割合は41.4%、感じない人の割合は21.4%
- ・「発達障害」の言葉や特性を知っている人の割合（「ある程度知っていた」を含む。）は72.4%、知らない人の割合は4.8%
- ・障害や障害のある人に対する正しい理解が浸透してきたと感じる人の割合は、29.7%、感じない人の割合は22.8%、どちらともいえない人の割合は35.2%

■ 共生社会を実現するために今後さらに力を入れるべき取り組みについて

- ・「障害のある人の家族などが利用しやすい相談体制の確立」が48.3%と最も高く、次いで「障害のある人の多様化するニーズに適切に対応できるよう、充実した福祉サービスの提供」（47.6%）、「雇用・就業機会の確保、拡大」（40.7%）の順となった。